

8

下地調整は塗装の命

下塗り前に外壁のひび割れや損傷部を補修する「下地調整」という作業があります。仕上がりを美しくするだけでなく、雨水の浸入を防止するためには重要な作業です。大きなヒビ割れや傷のある箇所にはシーリング材や専用のパテ、樹脂モルタルなどを塗り込んで平滑になるよう補修します。下地調整には古い塗料をはがしたり、わざとヤスリなどで表面を荒らして塗装の乗りをよくするための「ケレン」と呼ばれる作業もあります。

下地調整は
重要な作業



プロがこっそり教える耳より話(その6)

“いい仕事”はひび割れの処理でわかる

古いモルタル壁には筋状のひび割れが入りやすくなります。小さな隙間でも雨水が浸入しますので下地処理が必要です。上からシーリング剤を塗るだけの場合も多いですが、特に心配な箇所にはヒビに沿って「Vカット」加工をし、十分な深さと幅を作ってから、シーリング材を塗り込みます。シーリング材の密着性を良くするためにプライマーと呼ばれる接着剤を塗るなど、見えないところに丁寧な仕事をするのが本物のプロです。

